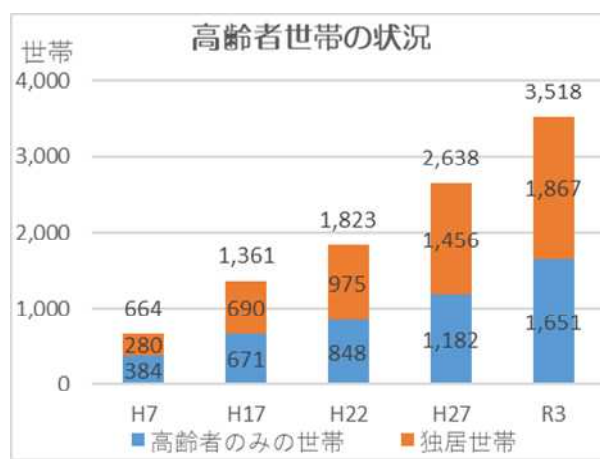
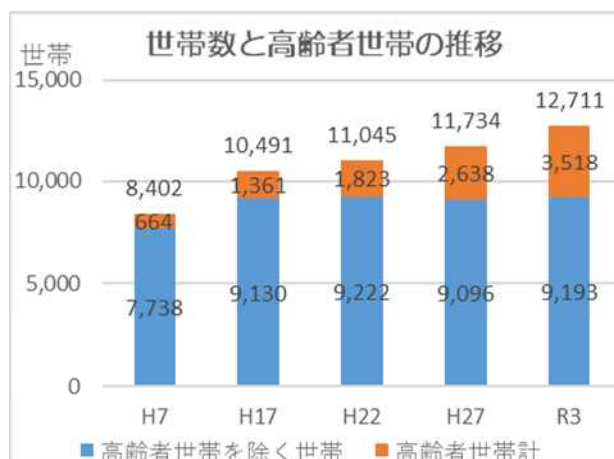
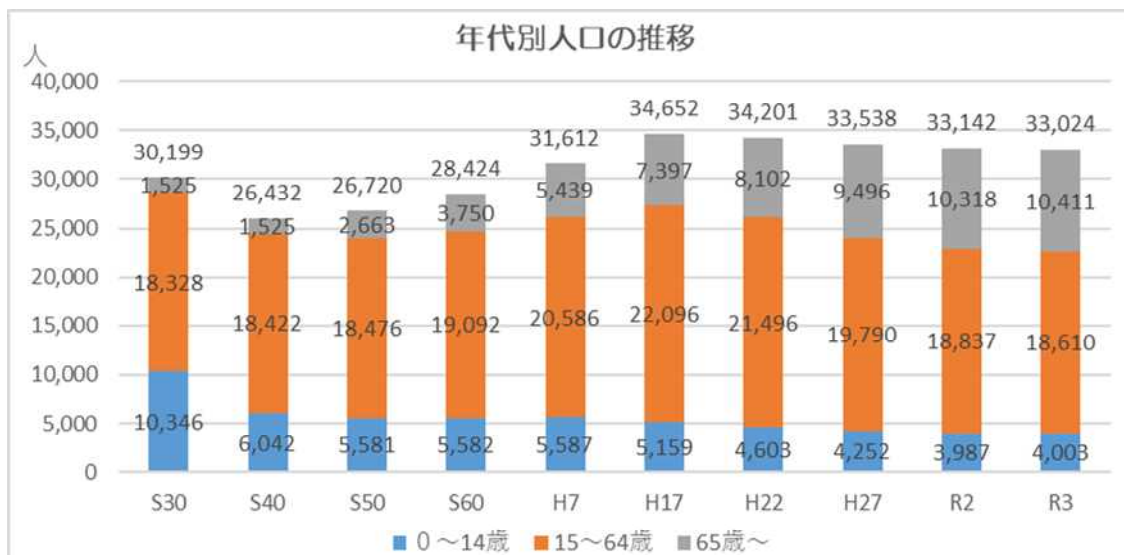


第2章 紫波町の現状について

1 紫波町の現状

(1) 人口・世帯数の推移

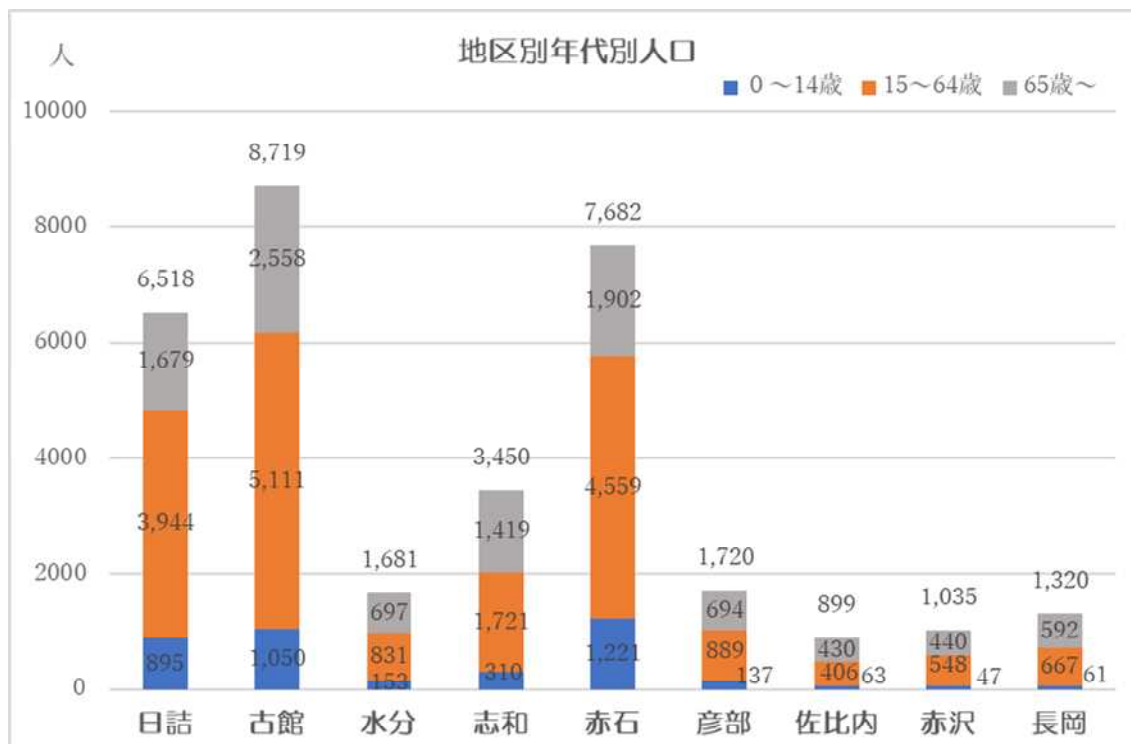
人口は、平成20年代の人口減少から転じ、直近5年間は33千人台で推移している。また、生産人口は減少、高齢人口は増加、年少人口は横ばいとなっている。令和3年度の高齢化率は31.53%、年少人口割合は12.12%となっている。



(出典：住民基本台帳 各年度3月31日)

(2) 人口・世帯数（地区別）

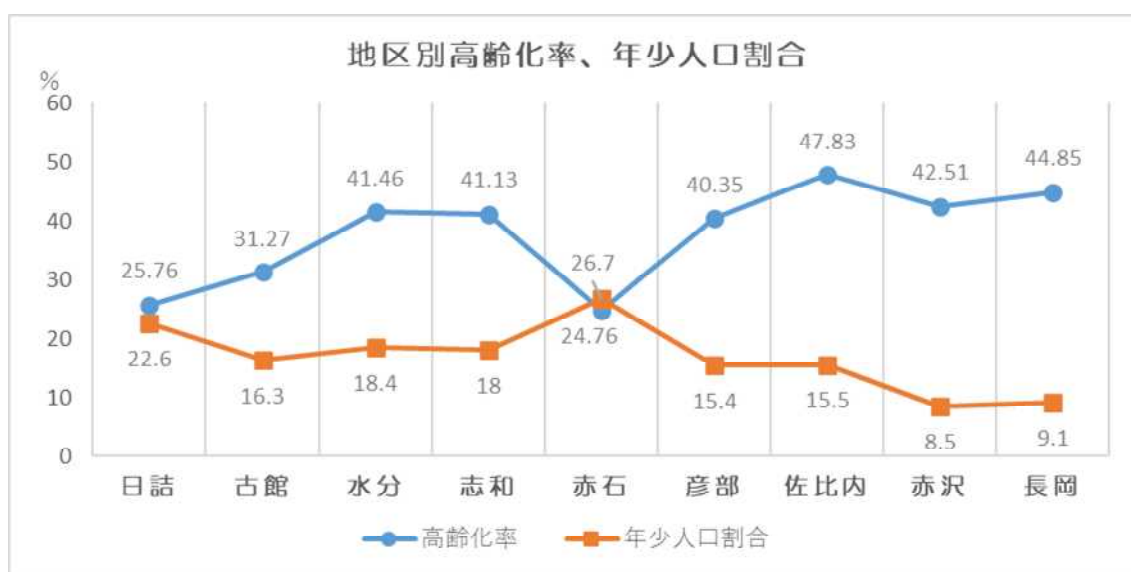
中央部（日詰、古館、赤石）が町の人口の約70%を占めている。古館が各区分の最も多い人口を有するが、年少人口は赤石が最も多い。高齢化率は中央部が25～31%台であるが、東部西部は40～47%台となっている。転入者の多い赤石、日詰がそのまま高齢化率が低く、また年少人口割合が高い。



（単位：人）

区分\地区	日詰	古館	水分	志和	赤石	彦部	佐比内	赤沢	長岡
65歳～	1,679	2,558	697	1,419	1,902	694	430	440	592
15～64歳	3,944	5,111	831	1,721	4,559	889	406	548	667
0～14歳	895	1,050	153	310	1,221	137	63	47	61
人口	6,518	8,719	1,681	3,450	7,682	1,720	899	1,035	1,320

（出典：住民基本台帳 令和4年3月31日）



（出典：住民基本台帳 令和4年3月31日）

※ 高齢化率は総人口に対する65歳以上の者の割合、年少人口割合は14歳以下の者の割合

(3) 総合計画における総人口総世帯の見通しと現状

総人口は、総合計画においてH17をピークに減少に転ずることで見込んでいるが、R2で33,049人と人口減少が見通しより緩やかとなっている。世帯数はR2で12,557世帯と見通しより大きく増加している。

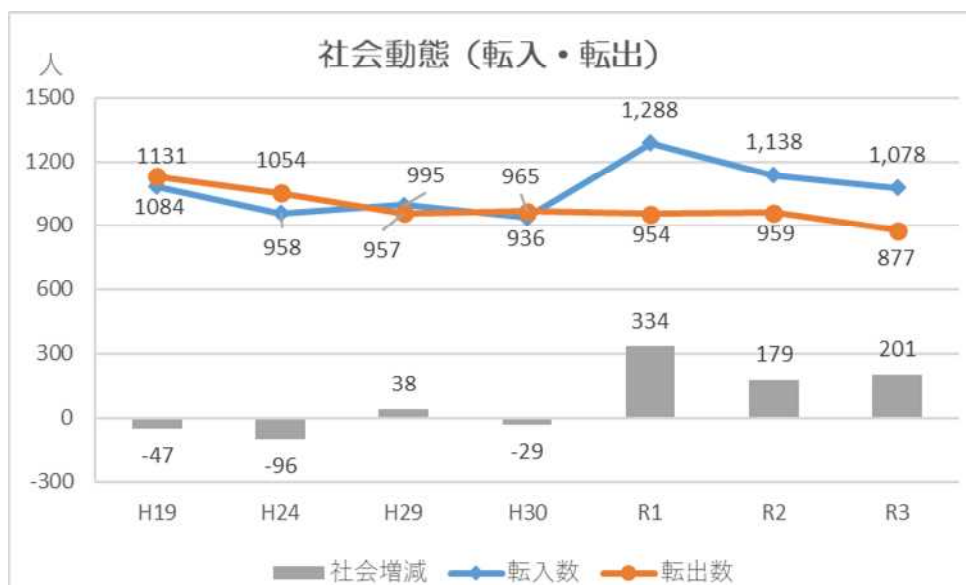
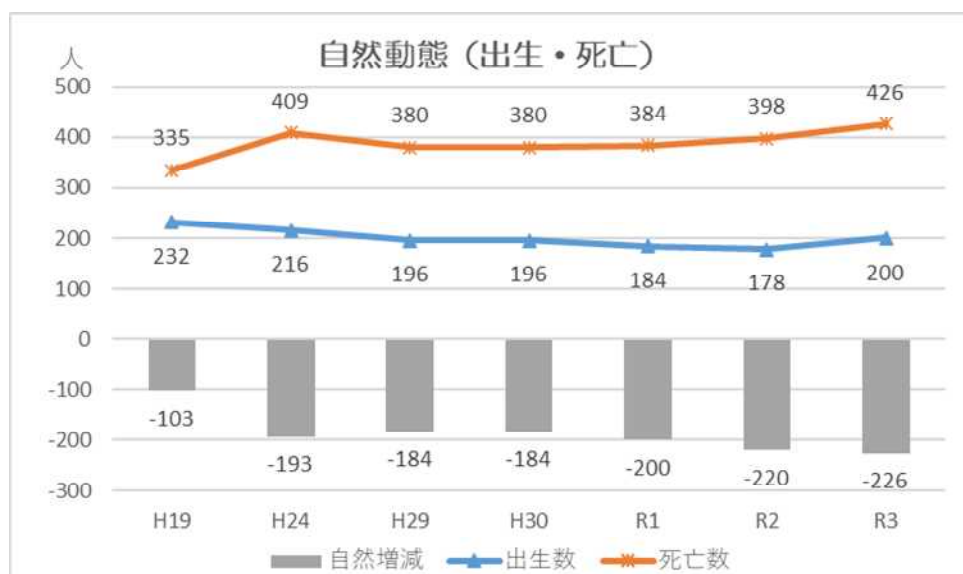
(単位：人、世帯)

区分\年	H22	H27	R02	R07	R12	R17
総人口	33,288	32,614	32,201	31,426	30,776	30,115
世帯数	10,513	10,808	11,297	11,733	12,280	12,903

(出典：第三次紫波町総合計画 第2節の1の(1)総人口・総世帯数の推移と見通し)

(4) 自然動態・社会動態

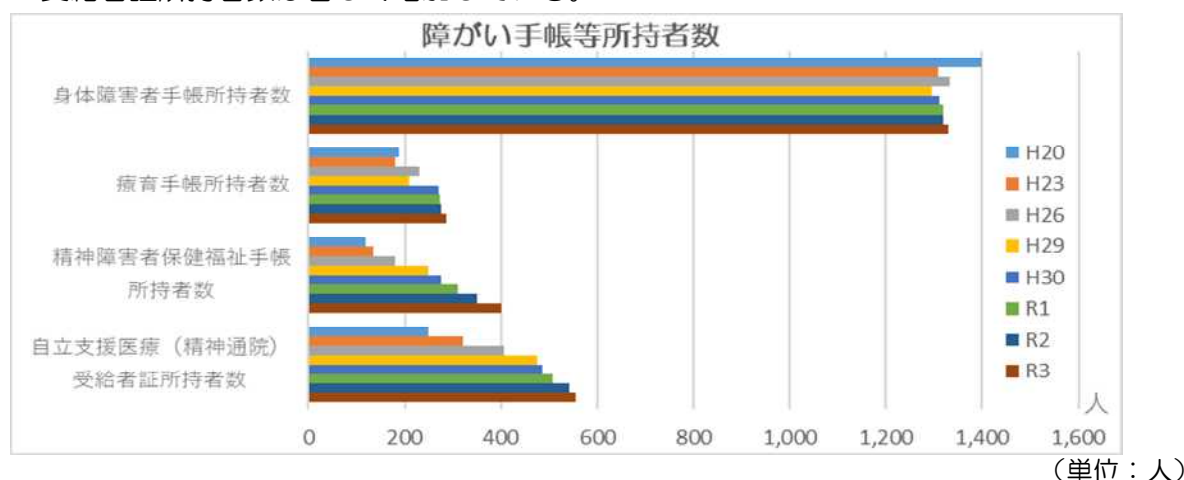
死亡者数は近年400人前後で微増し、出生者数は下降傾向で200人を下回っているなかR3は増加したが、自然増減は依然として下降線をたどっている。転出者は減少の傾向であり、また、転入者及び社会増減は令和に入ってから増加傾向である。転入者の増加は近年の宅地開発が大きい要因と考えられる。



(資料：町民課)

(5) 障害者手帳所持者数等の推移

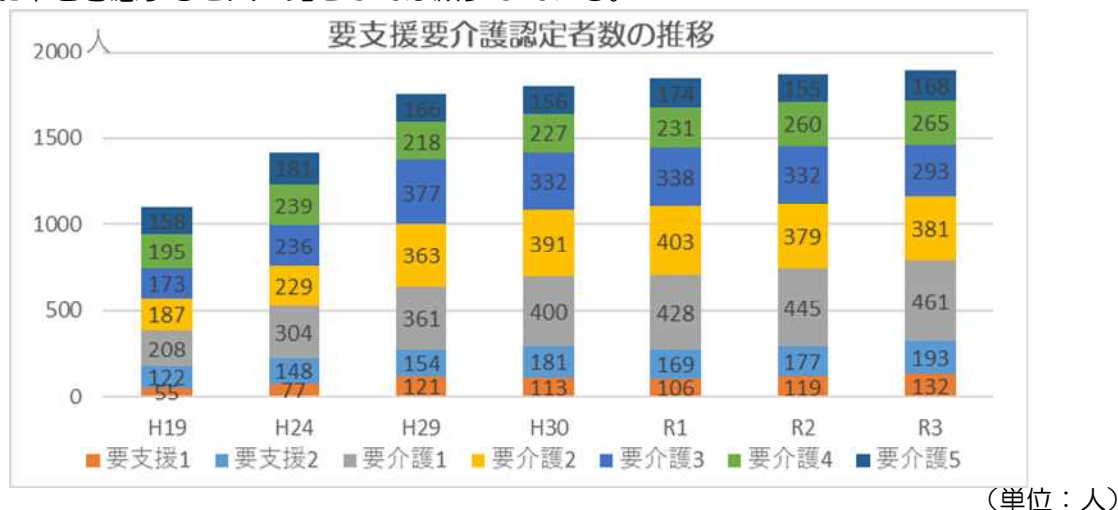
身体障害者手帳所持者数はほぼ横ばい、療育手帳所持者数は平成の後半に増加したが近年は微増となっている。精神障害者保健福祉手帳所持者数と自立支援医療（精神通院）受給者証所持者数は著しく増加している。



(出典：県央保健所、町健康福祉課福祉係)

(6) 要支援要介護認定者数の推移

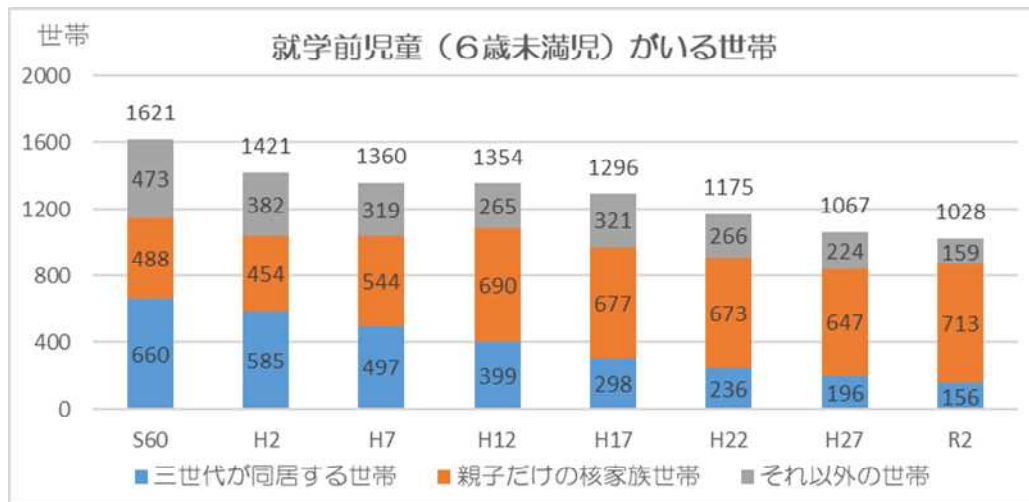
要支援要介護認定者数は、H19～H29の増加に比べ近年5年は微増で、高齢者の増加率を考慮すると人口比としては減少している。



(出典：長寿介護課)

(7) 就学前児童（6歳未満児）がいる世帯の比較

三世代が同居する世帯はほぼ均一に減少し、親子だけの核家族世帯は微減の時期がありながらも増加傾向である。世帯全体では減少している。



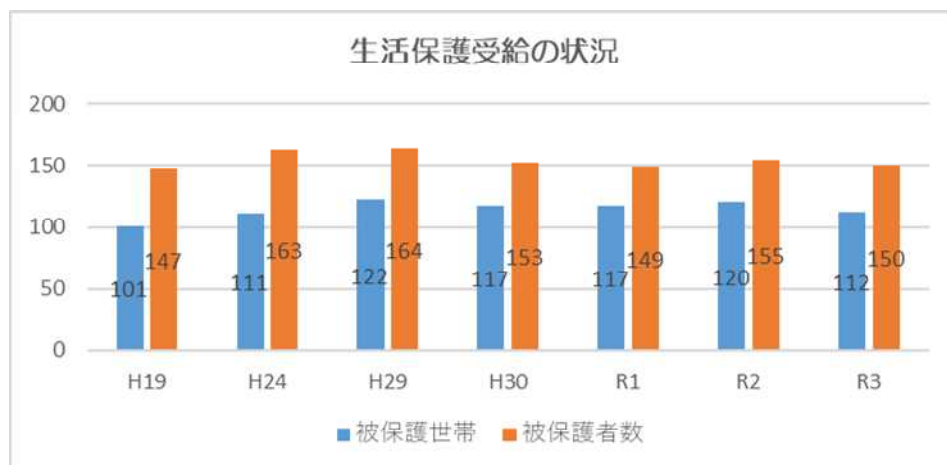
（単位：世帯）

区分 \ 年度	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
三世代が同居する世帯	660	585	497	399	298	236	196	156
親子だけの核家族世帯	488	454	544	690	677	673	647	713
それ以外の世帯	473	382	319	265	321	266	224	159
合計	1,621	1,421	1,360	1,354	1,296	1,175	1,067	1,028

（出典：国勢調査）

(8) 生活保護受給の状況

被保護世帯及び被保護者数は、概ね横ばいで推移している。



生活保護受給の状況

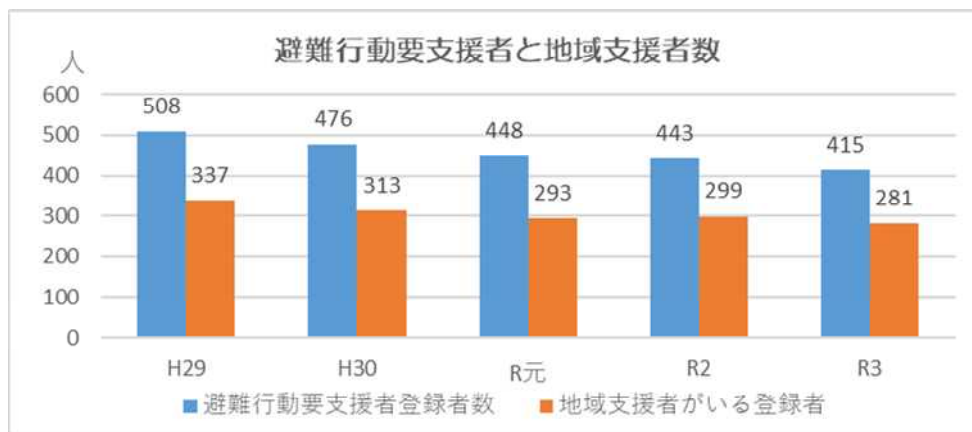
（単位：世帯、人）

区分 \ 年度	H19	H24	H29	H30	R元	R2	R3
被保護世帯	101	111	122	117	117	120	112
被保護者数	147	163	164	153	149	155	150

（出典：健康福祉課）

(9) 避難行動要支援者

避難行動要支援者登録者数は、微減となっている。地域支援者のいる割合に大きな変化はなく、避難行動要支援者登録者の3分の1の人が地域支援者がいないという状況が続いている。



(単位：人、%)

区分 \ 年	H29	H30	R元	R2	R3
避難行動要支援者登録者数	508	476	448	443	415
地域支援者がいる登録者	337	313	293	299	281
地域支援者のいる割合	66.34	65.76	65.4	67.49	67.71

(出典：健康福祉課 各年12月末日)

2 地域福祉を支える各種団体など

地域福祉を支える各種団体などを例示すると、次のとおり。

- (1) 自治公民館、自治会、町内会など
- (2) 民生児童委員協議会（民生児童委員、主任児童委員）
- (3) 社会福祉協議会（県社協・町社協・地区社協）
- (4) ボランティア団体・NPO法人
- (5) 人権擁護委員
- (6) 保健推進員
- (7) 消防団・自主防災組織
- (8) 老人クラブ連合会
- (9) 連合婦人会
- (10) 医師会・歯科医師会
- (11) 校長会、PTA連合会
- (12) 青少年育成ネットワーク
- (13) 防犯隊、地区防犯協会
- (14) 交通指導隊、交通安全協会、地区交通安全協会
- (15) 保護司、更生保護女性の会
- (16) 食生活改善推進員協議会
- (17) 子育て支援団体
- (18) 小学校の子ども会
- (19) 紫波町商工会、岩手中央農業協同組合
- (20) 障がい者福祉団体
- (21) 介護サービス事業者
- (22) 見守りネットワーク事業（みまもってネット）協力事業所
- (23) 地域支えあい推進員（生活支援コーディネーター）
- (24) 日本郵便株式会社紫波郵便局

（順不同）

3 地域福祉のイメージ

(1) 結いの心

私たちは、ふだん何気なく生活し、自分に不便や困りごとがないときは、自分を取り巻く環境に気づかないことがあります。また、周囲の困りごとも見過ごしたり、気づかなかったりしています。共に生活している地域の人たちへの、小さな気づかい、小さな声かけ、小さな助け合いの気持ちが大切です。

- ・お互いさまの気持ちを持ちましょう
- ・「縁」の行き交う地域でありたい
- ・近所づきあいを増やし、孤独な方を減らしていきたい

(2) 支え合う人たち

「困っている人がいたら助けたい」…そんな気持ちは誰もが持っています。

地域の皆さんが、小さな声かけから始め、小さなボランティア活動を行ってみることが大切です。

- ・誰もが無理なく取り組み、喜び楽しさを見出し、続けられること
- ・それぞれできることを見つけ、支え合っていきたい
- ・声をかけあうことを大切にしていきたい
- ・頼れる人が地域にいる関係をつくっていきたい
- ・通りすがりに声をかけたり、空き缶などのごみ拾いもボランティアです

(3) 元気な地域

笑顔があふれ、地域の皆さんが安心して暮らしていくには、個々がばらばらではなく、やはり地域で支え合って、つながり合っていかなければいけません。そのためには元気な地域の底力が必要です。

- ・にぎやかな地域でありたい
- ・伝統文化や地域の行事を受け継ぐ人材と風土がある
- ・みんなで地域の伝統や文化を守りたい
- ・地域に愛着を持ち、今より暮らしやすくしようとしている人がある
- ・若い人が積極的に参加する

(4) 助け合いの輪

住んでいる人が地域で孤立したり、生活上の困りごとや悩みごとがあるとき、解決に向けた仕組みづくりは、これから、ますます大切になっていきます。隣近所への声かけやあいさつなど、日ごろのおつきあいが、地域の助け合いの大きな輪になっていきます。

- ・みんなで前に進みましょう
- ・気軽に集う場所をもっと広げていきたい
- ・福祉ネットワーク（ふれあいカード、班会議などの話し合いの場）がある
- ・いこいの家、貸農園、宅配弁当など、かわり合いのある仕組みがある

4 アンケート結果

(1) アンケート調査の概要

調査名称：第2期紫波町地域福祉活動計画策定に伴うアンケート調査

実施主体：社会福祉法人 紫波町社会福祉協議会

調査対象：紫波町在住の18歳以上79歳以下の住民1,200人

(18～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70～79歳の6階層の男女各100人を無作為に抽出)

調査方法：郵送による配布・回答

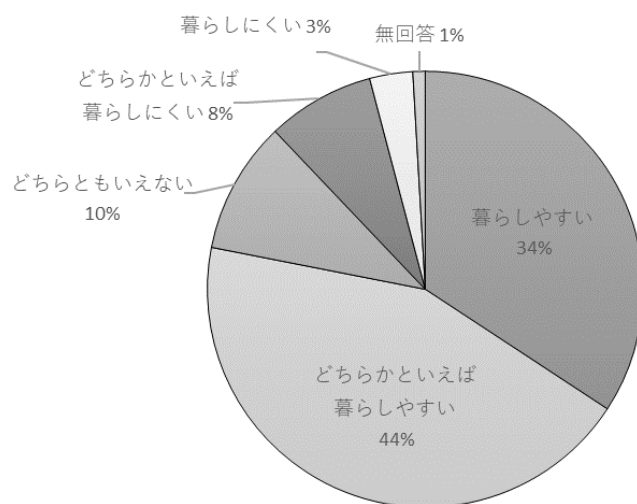
調査期間：令和4年8月12日（金）～9月9日（金）

回収数：438件

回収率：36.5%

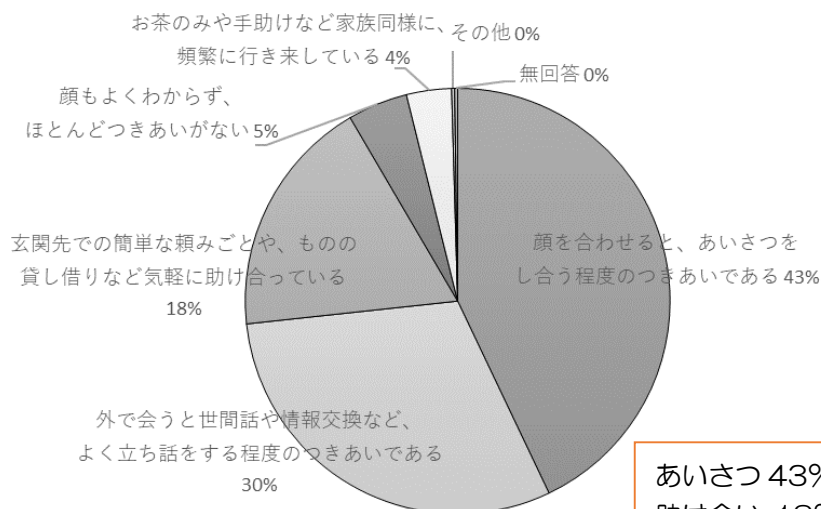
(2) アンケート結果

あなたのお住まいの地域は、あなたにとって暮らしやすいと思いますか。（1つに○）



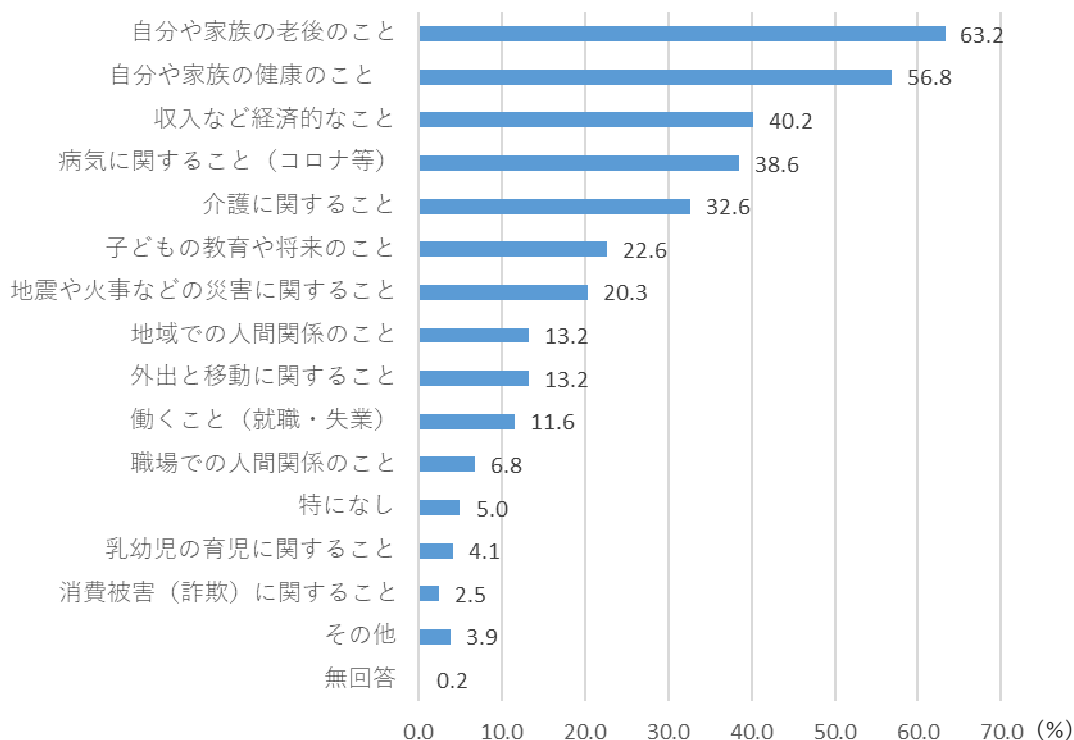
暮らしやすい・どちらかといえば暮らしやすいとの回答が約8割を占めた

あなたは、隣近所の人と、どの程度のおつきあいがありますか。（1つに○）



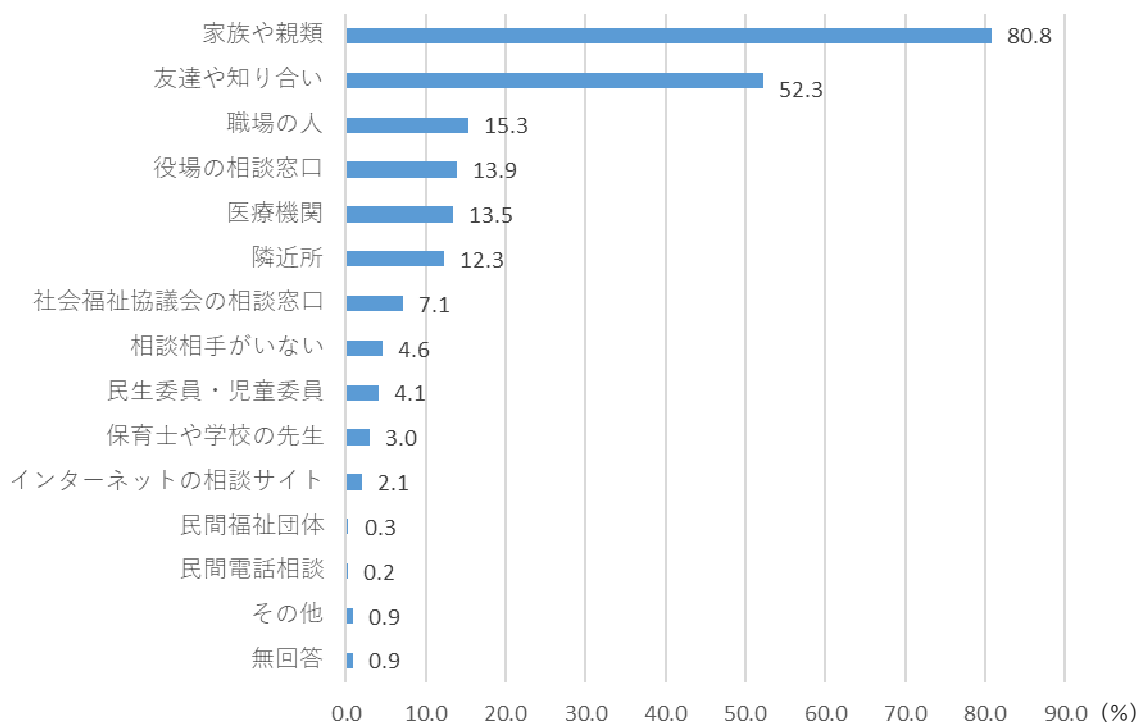
あいさつ 43%、立ち話 30%、助け合い 18%、家族同様 4%と付き合いの深さと割合が比例していた。

あなたが、日常生活で不安に思っていることは、どのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）



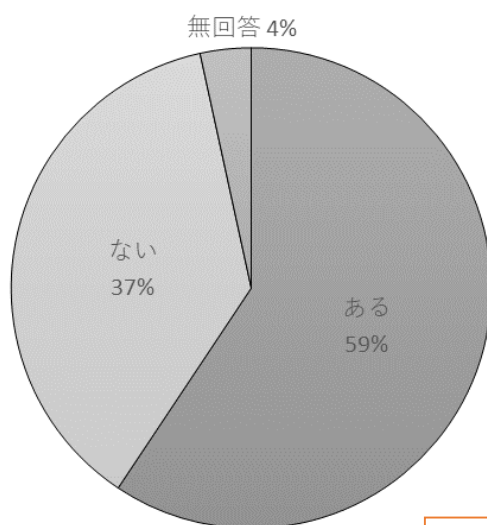
老後、健康が半数以上、経済、病気が4割。介護が3割の方が不安に思い、続いて子ども、災害の順で続いた。

あなたは、毎日の暮らしの中で困ったり、不安を感じたとき誰に（どこに）相談しますか。（あてはまるものすべてに○）



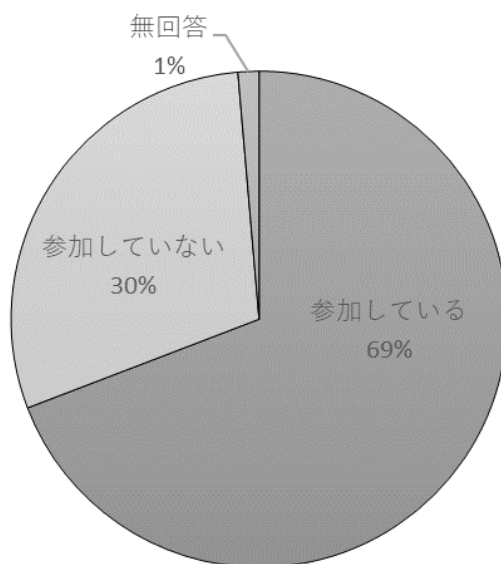
相談先として、家族や親類が約8割、友達や知り合いが約5割、その他は15%台以下となり、その中で役場13.9%、社協7.1%、民生委員4.1%、民間福祉団体0.3%であった。

あなたは、地域に支えられた（助けられた）と感じたことはありますか。（1つに○）



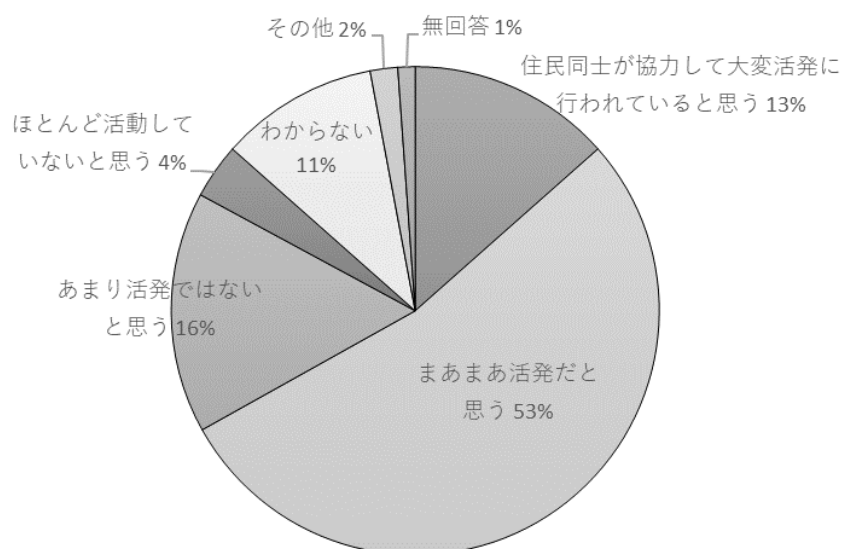
地域に支えられたと感じた方が約6割であった。

あなたは、地域での活動（町内会、子ども会など、主にあなたのお住まいの地域を対象とした活動）に参加していますか。（1つに○）



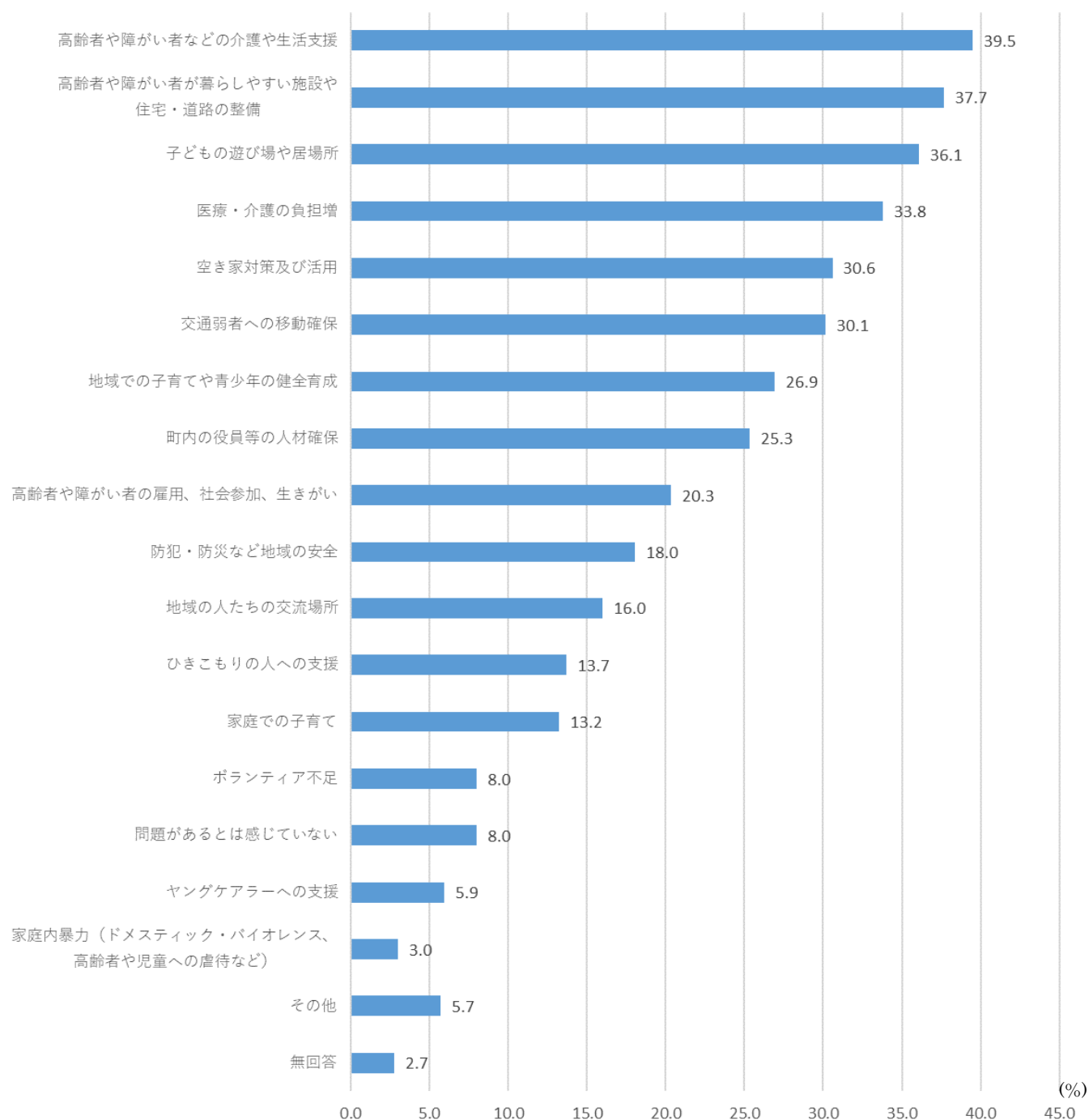
地域活動に参加している方が約7割であった。

あなたは、お住まいの地域の様々な住民活動（清掃活動や祭り、子ども会、PTAなど）について、どのように感じていますか。（1つに○）



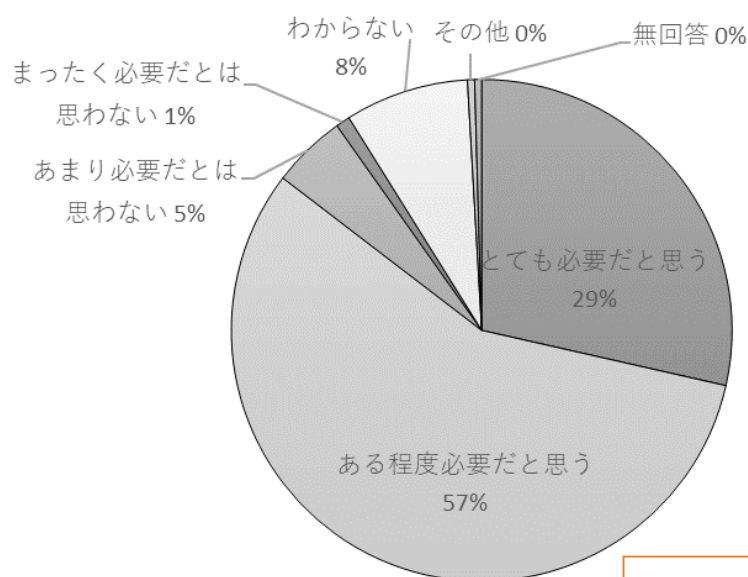
地域の住民活動について、大変活発・まあまあ活発が66%、あまり活発でない・ほとんど活動していないが20%であった。

あなたがお住まいの地域には、どのような問題や課題があると感じていますか。（あてはまるものすべてに○）



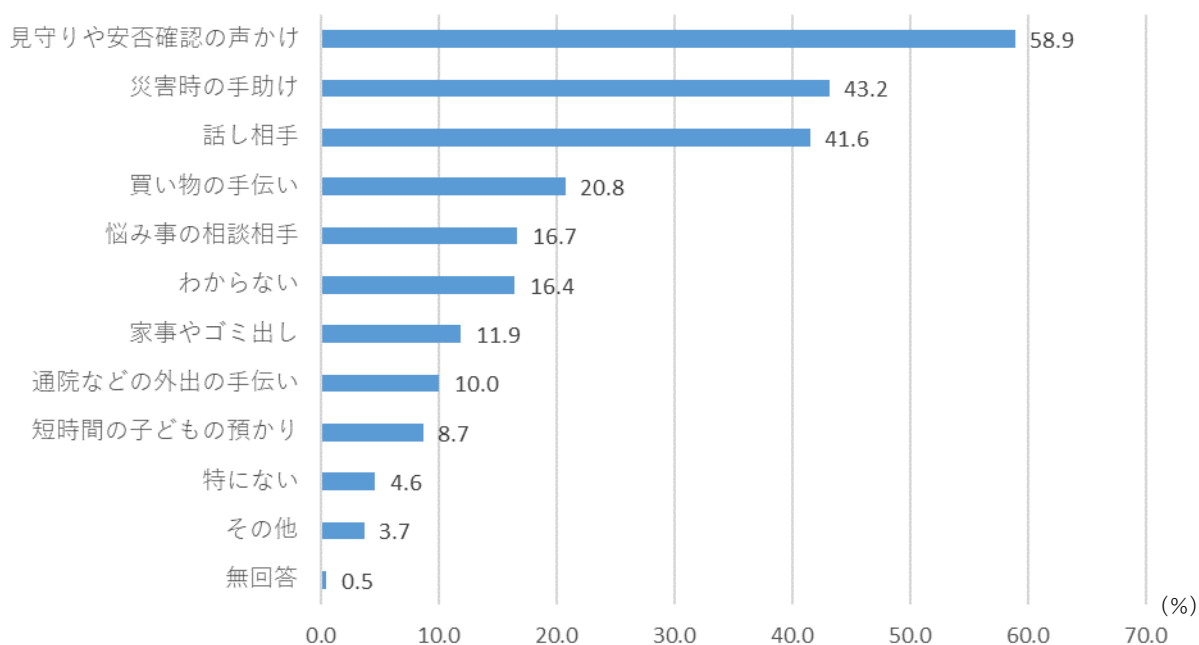
地域の問題・課題として、高齢者・障がい者などの介護や生活支援、暮らしやすい施設・住宅・道路の整備が4割弱、子どもの遊び場や居場所、医療・介護の負担増、空き家、交通弱者への移動確保など、問題や課題などの捉え方が幅広い項目に意見がまとまって分かれていた。

あなたは、お住まいの地域の様々な問題や課題に対して行う住民相互の支えあいや助け合いについて、どのように思いますか。（1つに○）



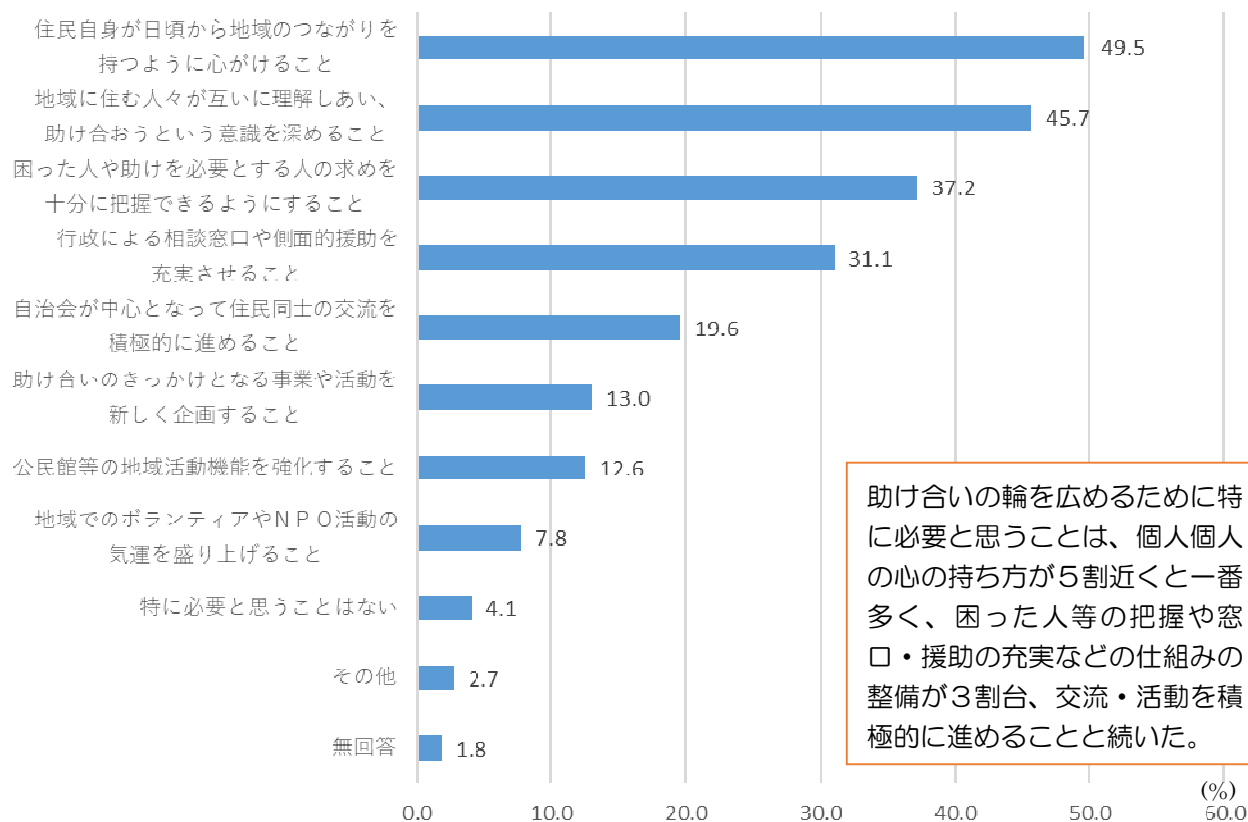
地域の様々な問題の対応に助け合いは、とても・ある程度必要が86%、全く・あまり必要だと思わないが6%であった。

あなたは、隣近所に困っている家庭があった場合、どのような手助けができますか。（あてはまるものすべてに○）

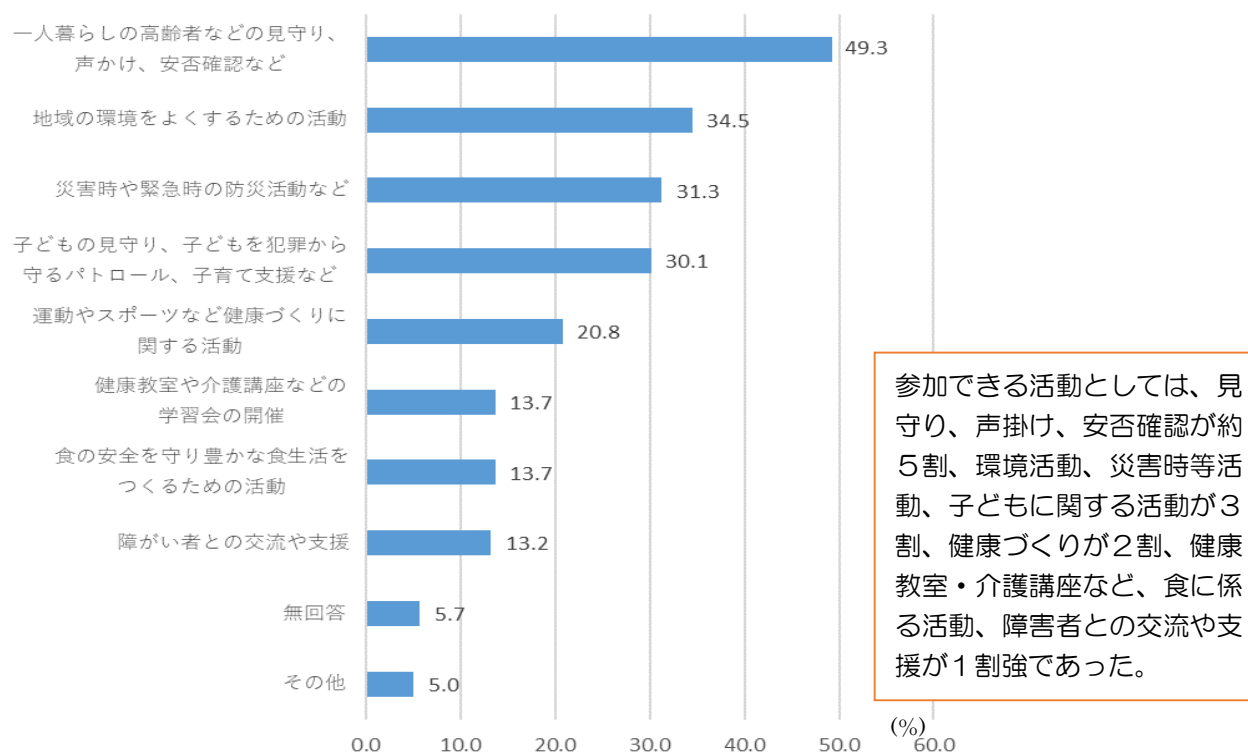


隣近所の困りごとに対しできる手助けとして、見守りや安否確認の声かけが約6割、災害時の手助け、話し相手が4割強、買い物の手伝い、悩みごと相談相手、家事やゴミ出し、外出の手伝いが約1～2割、短時間子ども預かりは1割弱であった。

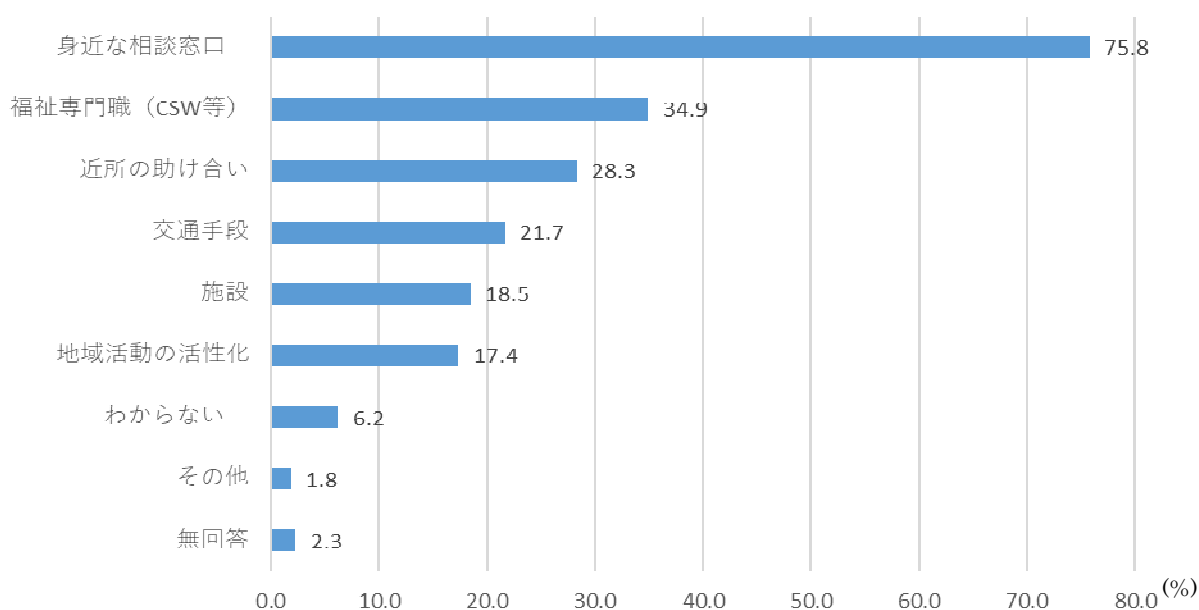
地域で助け合いの輪を広げていくために、あなたが特に必要だと思うことはどのようなことですか。（主なもの3つまで○）



あなたが現在参加している活動も含め、これから参加するとすればどのような活動をしたいですか。（主なもの3つまで○）

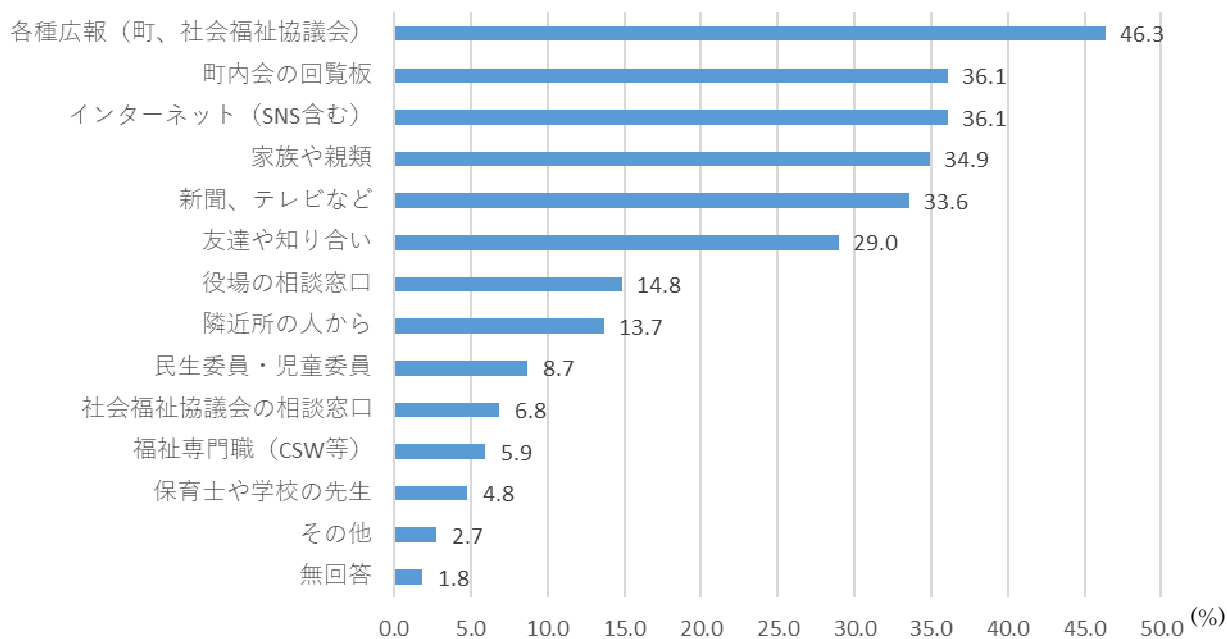


あなたがお住まいの地域で困ったことがあった場合、スムーズに解決するためにはどのような仕組み・方法があれば良いと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



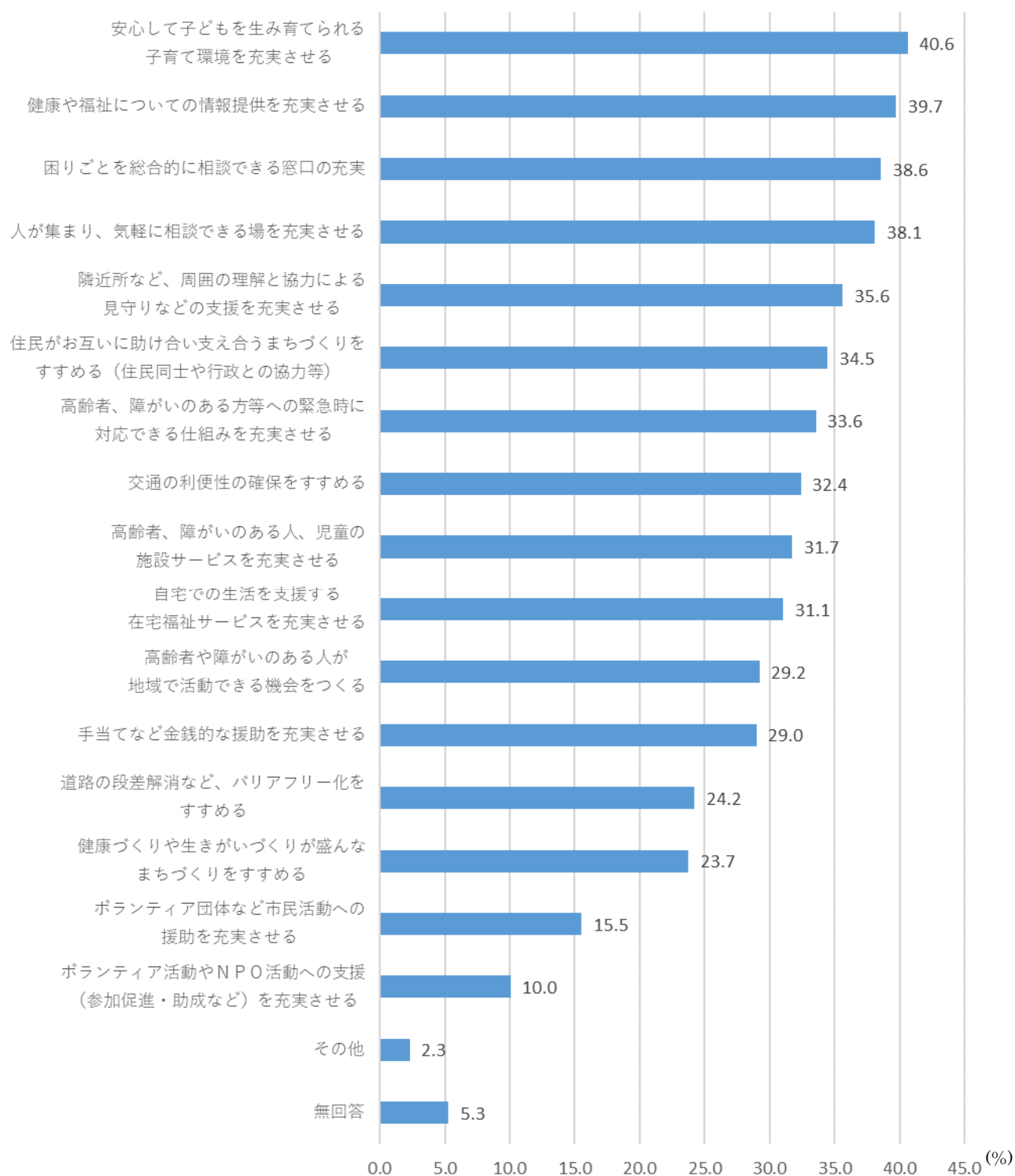
困りごとの解決する仕組み・方法としては、身近な相談窓口が約75.8%と大きく、福祉専門職、近所の助け合い、交通手段、施設、地域活動の活性化と続いた。

あなたは、福祉についての情報や知識をどのようにして得ていますか。（あてはまるものすべてに○）



情報を得る方法としては、各種広報が5割弱、回覧板、インターネット、家族や親類、新聞テレビ、友達・知り合いなどが約3～4割、そのあと役場、隣近所、民生委員・児童委員、社会福祉協議会と続いた。

福祉施策をより充実していくためには、あなたが重要と考える取組はどれですか。（あてはまるものすべてに○）



福祉施策の充実に重要と考える取組は、子育て環境の充実が一番であり、健康・福祉の情報提供の充実、総合相談窓口の充実、人が集まり気軽に相談ができる場の充実など 12 項目が約 3 割以上となった。